

菅波 茂

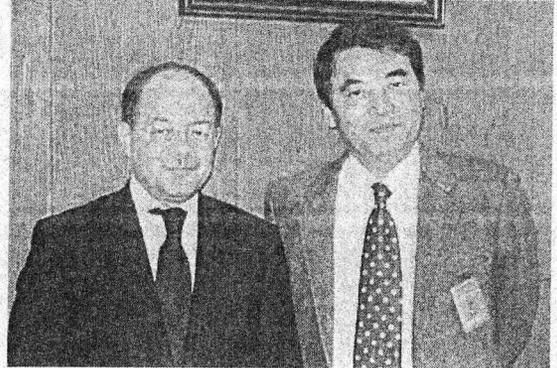
10月17日よりの27日までトルコ共和国を訪問した。目的は中央アジア、中近東そしてイスラム諸国における災害対応体制構築のために地政学的に重要な立場にあるトルコとの連携強化のためだった。21日に国会で保健大臣であるシドジェブアク

トルコ大地震を契機に整備されてきている。自然災害だけでなくテロや紛争対応もあり、隣国のカザフスタンなどと合同訓練

を実施していた。04年のスマトラ沖地震津波被災者救援活動だけでなく、直近のハイチ大地震被災者救援活動にも緊急救援チームを派遣している。災害医療救援活動の被災地でムヒッティン局長とお目にかかることと共に、トルコでのAMDA医療チームの受け入れの約束をしていた。

トルコ大地震を契機に整備されてきている。自然災害だけでなくテロや紛争対応もあり、隣国のカザフスタンなどと合同訓練を実施していた。04年のスマトラ沖地震津波被災者救援活動だけでなく、直近のハイチ大地震被災者救援活動にも緊急救援チームを派遣している。災害医療救援活動の被災地でムヒッティン局長とお目にかかることと共に、トルコでのAMDA医療チームの受け入れの約束をしていた。

国会では、共和国東部出身で、クルド族1万人を率いる部族長のアブド



ウルムタリップ議員とも懇談した。89年、大量のクルド人がイラクからイランに難民として逃れた時に、AMDAが医療チームを派遣したことを紹介した。アブドウルムタリップ議員もこの難民たちの救援のためにイランに滞在されていたとのことだった。彼の故郷への熱心な招待と今後の協力

## トルコ共和国との連携強化

の約束をいただいた。いつか5カ国に分布する3540000万人のクルド族のお役に立つことができれば望外の喜びである。

イラン・イラク戦争が本格化する直前の85年3月、フセイン大統領は48時間の猶予期限以降に上空を通過する他国航空機への攻撃を宣言した。イランに住む外国人についてはそれぞれの国が軍や航空機を用意して自国民を脱出させることとなった。二百余名の日本人が首都のテヘランに避難していた。日本政府は救援機を派遣できなかった。この時、危険を顧みずに、日本人をテヘランからトルコのイスタンブールへ脱出させたのはトルコ政府が派遣した救援機だった。なぜか。12

0年前に和歌山県の串本沖で台風のために遭難したオスマントルコ帝国の軍艦エルトゥール号の生存者69名を漁民が救出し、日本がトルコへ送り届けたことへのお返しだった。

トルコの教科書ではこの事件は大きく紹介されており、首都のアンカラには資料館まで設立されている。日露戦争の26年前にロシアとの戦争で敗北し半属国のような状態にあったオスマントルコは、日露戦争の時にはバルチック艦隊が黒海からボスポラス海峡を通過するのを妨害して、日本の勝利に大きく協力している。伝統的に親日である。トルコは、中近東や中央アジア等の、イスラム諸国のリーダーとしての地位を確立してきてい

る。目のくらむようなハイパーインフレーションを数年前に克服して経済も復活している。自信を回復して、積極的に海外の災害医療支援にも力を入れている。

今回の訪問で特にうれしかったことがある。それは岡山大医学部博士課程を修了された優秀な方々が首都のアンカラにある新進気鋭のファティ大医学部で教育と研究に従事されていることだった。(ちなみに、ファティとはビザンチン帝国を攻略したオスマントルコの皇帝の名前である)最後に、イスタンブールの猫は、人を見ても恐れれることも逃げることもなく、悠々としていた。人々の穏やかな生活の良き象徴と思えた。(AMDAグループ代表)